

全英文法 チェックリスト

英文法の全体像を把握できるように工夫しました。高3までに学習する全英文法事項を細部まで網羅しています。

※汎用的な英文法事項をまとめており、語法は一部を除き加えていません。また、中1内容の特に基礎的な部分も加えていません。使用している英文は複数のネイティブによるチェックを受けています。

チェックリスト WEB 版(スマホにも対応) : <https://www.eevideo.net/sp/eibunpou-list.html>

動画で学ぶ英文法 : <https://www.eevideo.net/grammar/>



1. 品詞, 文型

1. 品詞

品詞には**名詞, 動詞, 形容詞, 副詞**などがある。

○副詞は動詞や文全体を修飾し「どのように」「どこで」「いつ」などを表す。

場所や時を表す品詞には副詞の他に名詞があるが、名詞の場合は前に**前置詞**が必要。

He went there yesterday. (どちらも副詞)

He went to the library in the morning. (どちらも名詞)

※everyなどが付くと (every morning など) 副詞句になり、前置詞は不要。

2. 目的語と補語

一般動詞の後に置かれ主に「～を」を表す名詞が**目的語**, be 動詞の後に置かれる名詞や形容詞が**補語**。

○補語を取る動詞には be 動詞だけではなく、一部の一般動詞(不完全自動詞)もある。keep (状態), become (変化), look (感覚)などが該当。

She is happy.

She became happy.

She looks happy.

○補語には名詞や形容詞だけではなく、分詞(現在分詞, 過去分詞)が使われることもある。

She is happy.

She is sleeping. 【現在分詞】

She is satisfied. She is loved. 【過去分詞】

※be 動詞+現在分詞は**進行形**, be 動詞+過去分詞は**受動態**。

3. 自動詞と他動詞

1語で完結した動詞 (swim など) が**自動詞**, 目的語が必要な動詞 (have など) が**他動詞**。

動詞の多くは自動詞と他動詞の両方で使われ意味も変わらないが (study など), 意味が変わる動詞もある。

He runs every morning. (走る) 【自動詞】

He runs small restaurant. (経営している) 【他動詞】

○他動詞の中には、<目的語+目的語>を伴うものがある。

My father made me a table. 【SVOO】

○他動詞の中には、<目的語+補語>を伴うものがある。

My father made me a doctor. 【SVOC】

4. 使役動詞

My father made me study English. 【SVOC】

| | |
|----------|---------------|
| have A B | AにBされる, してもらう |
| let A B | AがBするのを許可する |
| make A B | (むりやり) AにBさせる |

※Bは動詞(原形不定詞)。

5. 後置修飾

2語以上で名詞を修飾する場合は、まとめて後ろから修飾する。

- a way **to learn Italian** (イタリア語を学ぶ方法) 【不定詞】
- a friend **living in Italy** (イタリアに住む友人) 【現在分詞】
- a bag **made in Italy** (イタリア製のカバン) 【過去分詞】
- a bag **that I bought in Italy** (イタリアで購入したカバン) 【関係詞】

6. 仮主語 it, 仮目的語 it

主語や目的語が不定詞や that 節のときは、it を使うことがある。

- It is hard to study English.** 【仮主語 it+不定詞】
- It is hard that we study English.** 【仮主語 it+関係詞】
- I found it hard to study English.** 【仮目的語 it+不定詞】 **高校**
- I found it hard that we study English.** 【仮目的語 it+関係詞】 **高校**

7. 強調のための倒置(疑問文の形) **高校**

強調したい語が文頭に。以下の3パターンが中心。

○文頭が否定語

- Little does he know the fact.** (その事実に少しも気づいていない)
- Not a letter did I receive from him.** (彼から1通も手紙を受け取らなかった)
- ※not, never, hardly, scarcely, rarely, little, no, only, nor, not only but also 等。一見否定語に感じない語も多い。

○文頭が形容詞, 副詞

- Available is a double bedroom.** (ダブルのベッドルームが利用できる)
- Well do I know the road.** (この道をよく知っている)

○文頭が場所を表す語

- On his left sat his mother.** (彼の左側には母親が座っていた)
- Far away across the sea lies the sunny land of Spain.** (海のはるか向こうに、太陽の国スペインがある)
- ※動詞が主語の前に置かれるが、疑問文の形にはならない。

○節が文頭に来ることもある。 **ハイレベル**

- Only when it started to rain did Jim noticed that he didn't have an umbrella.**
(雨が降り始めるまで、ジムは自分が傘を持っていないことに気付かなかった)

2. 準動詞

動詞の原形に to~, ~ing, ~ed などが付くと、動詞以外のさまざまなはたらきをする。

1. 不定詞(名詞的用法), 動名詞 <to ~, ~ing>

ふつうの名詞と同じように、主語や目的語, 補語になる。

- He likes to study English.** (～すること) 【不定詞(名詞的用法)】
- He likes studying English.** (～すること) 【動名詞】

○目的語として不定詞, 動名詞のどちらかしか取れない動詞もある。

- He wants to study English.** (want は不定詞のみ)
- He enjoys studying English.** (enjoy は動名詞のみ)

○不定詞の前に疑問詞が付くとその意味が添えられる。

- how to study English, when to study English**

○前置詞の後には動名詞しか置くことができない。

- He went to bed after studying English.**

○不定詞の受動形（～されること）： to being+過去分詞 **高校** **ハイレベル**
He is used to **being attacked by critics**. (批評家から攻撃されることに慣れている)

○動名詞の意味上の主語は所有格で表す。 **高校** **ハイレベル**
I am sure of **his succeeding**. (彼の成功を確信している)

2. 不定詞(形容詞的用法)

名詞を後から修飾し「～するための」などの意味になる。

He knows a good way **to study English**. (英語を勉強するよい方法)

3. 不定詞(副詞的用法)

おもに文末に置かれ補足説明をする。

He went to America **to study English**. 【～するために(目的)】

He is happy **to study English**. 【～して(感情の原因)】

He is clever enough **to become a doctor**. (医者になるなんて賢い) 【～なんて(判断の根拠)】

He grew up **to become a doctor**. (成長して医者になった) 【そして～した(結果)】

Old people are slow **to accept new technology**. 【形容詞を修飾】

(新しいテクノロジーを受け入れるのが遅い)

4. 不定詞の意味上の主語<for~, of~> **高校**

I cleaned the room **for him to take photos**. (彼が写真を撮れるように～)

It is kind **of you to invite me**. (招いてくれるとはあなたは親切だ) **ハイレベル**

※人の性格を表すときは of～。

5. 不定詞の受動態<to be+過去分詞> **高校**

Everyone wants **to be loved by someone**. (誰かに愛されたいと思っている)

6. 予定や義務を表す be to~ **高校**

「～することになっている」という意味になる。

I **am to meet him** today. (彼に会うことになっている)

You **are to wait your turn**. (自分の番を待たなければならない)

7. 現在分詞, 進行形<~ing>

「～している」という意味。形容詞的に使われ、ふつうの形容詞と同じように名詞を修飾したり、be 動詞の補語(進行形)になる。

studying boys, **boys studying English** 【名詞を修飾】

Tom **is studying English** now. (今、勉強している) 【進行形】

※2語以上の場合、後ろから名詞を修飾(後置修飾)。通常は2語以上のため、後置修飾が一般的。

8. 過去分詞, 受動態<~ed>

「～される,された」という意味。形容詞的に使われ、ふつうの形容詞と同じように名詞を修飾したり、be 動詞の補語(受動態)になる。

boiled eggs, **eggs boiled hard** (ゆでられた卵→ゆで卵) 【名詞を修飾】

This egg **is boiled**. (卵はゆでてある) 【受動態】

※2語以上の場合、後ろから名詞を修飾(後置修飾)。通常は2語以上のため、後置修飾が一般的。

※過去分詞には不規則変化も多い。

○助動詞を含む受動態<助動詞+be+過去分詞> **高校**

The car **must be repaired**. (修理されなければならない)

○進行形の受動態<be 動詞+being+過去分詞> **高校**

The car **is being repaired**. (修理されているところだ)

○受動態＋不定詞 **高校**

He is known to be a great writer. (偉大な作家として知られている)
※不定詞で補足説明をしている。

○感情や被害を表す受動態

I am satisfied with the result. satisfy(満足させる) → satisfied(満足させられている)
※感情や被害はきっかけがあって起こるため、英語では「～される」と受動態で表すことが多い。

9. 現在分詞, 過去分詞の注意点 **高校** **ハイレベル**

意味を取りにくい場合は元の動詞の意味に注意する。

a satisfying result (満足させる結果 → 満足する結果)

a satisfied boy (満足させられた少年 → 満足した少年)

falling snow (降っている雪)

fallen snow (降らされた雪 → 積もった雪)

※satisfyは「(人)を満足させる」、fallは「降る」という意味。

10. 分詞構文 **高校**

現在分詞1語で「～するとき」、過去分詞1語で「～されているので」など、接続詞の意味を伴うはたらきをする。

Walking down the street, I met him. (道を歩いている時～)

Written in easy English, I like this book. (平易な英語で書かれているので～)

with A + ～ing, ～ed で付帯状況を表す。 **ハイレベル**

He sat on the bench with his arms waving . (手を振りながら～)

He sat on the bench with his arms crossed. (腕を組んで～)

11. SVO＋O(不定詞) **高校**

I advised him to take a rest. (彼に休息をとるように～)

I feel this book to be very interesting. (本をおもしろいと～)

12. SVO＋O(分詞), SVO＋O(原形不定詞) **高校** **ハイレベル**

I found the dog barking at me. (犬が私に吠えていることが～)

I found the dog abandoned. (犬が捨てられていることが～)

I saw the dog barking(bark). (犬が吠えていることが～)

I let the dog bark(barking 等は不可). (犬に吠えさせてあげた)

I made him clean(to clean 等は不可)the room. (彼に部屋を掃除させた)

※sawなど知覚動詞は原形不定詞がくることもある。使役動詞(make, have, let)は必ず原形不定詞がくる。

13. 準動詞の語順 **高校** **ハイレベル**

準動詞には元の動詞の語順(動詞・目的語など)が生きている。

元の語順: communicate with each other

Whales have the ability to communicate with each other. (クジラには互いに意思を伝える能力がある)

What should we do to communicate with each other? (互いに意思を伝えるには何をすべきか)

Communicating(To communicate) with each other is hard. (互いに意思を伝えることは難しい)

3. 疑問詞,関係詞,接続詞

who, what, where など wh-で始まることばと how, that は似たはたらきをし、さまざまな表現をする。

1. 疑問詞

Who do you want to talk to? (あなたは誰と話したいのですか)

Who wants to talk to you? (誰があなたと話したいのですか)

※後のように疑問詞が主語のときは、後が肯定文の形になる。

2. 感嘆文

What an exciting movie (this is)!

How exciting (this movie is)!

※ () 部分はよく省略される。

○文の前に how を置いて強調することがある。 **高校** **ハイレベル**

How I wish I could travel around the world. (世界中を旅行したいなあ)

3. that 節, whether(if)節

○名詞節になり、ふつうの名詞と同じように主語や目的語、補語などになる。

I know that he drives the car. (彼がその車を運転すること)

Do you know whether(if) he drives the car? (彼がその車を運転するかどうか) **高校**

○感情の原因を表す that 節 **高校** **ハイレベル**

I was glad that he was alive. (彼が生きていたことが～)

4. 同格の that **高校** **ハイレベル**

The fact that he knew it was shocking to me. (彼がそれを知っていたという事実は～)

※「The fact=that he knew it」の関係がある。

The fact that he knew was shocking to me. (彼が知っていた事実は～) 【関係代名詞】

※he knew は The fact を修飾している。

5. 間接疑問文

名詞節になり、ふつうの名詞と同じように主語や目的語、補語などになる。疑問詞の後は肯定文の語順。

Please tell me when he drives the car. (彼がいつその車に乗るのか教えて下さい)

6. 関係代名詞 who, whom(that)

a boy who(that) loves Emily (エミリーを好きな少年) 【主格】

a boy whom(that) Emily loves (エミリーが好きな少年) 【目的格】

※目的格の関係代名詞はよく省略される。

7. 関係代名詞 which(that)

a radio which(that) was made in 1980 (1980年に製造されたラジオ) 【主格】

a radio which(that) we made in 1980 (1980年に我々が製造したラジオ) 【目的格】

※目的格の関係代名詞はよく省略される。

8. 関係代名詞 whose **高校**

a radio whose speaker broke down (スピーカーが壊れたラジオ) 【主格】

a radio whose speaker I broke (スピーカーを私が壊したラジオ) 【目的格】

※whose は人とももの両方に使われる。

9. 関係代名詞 what「～のもの(こと)」 高校

what I want (私が欲しいもの)
what is important for me (私にとって重要なこと)

10. 関係副詞 when, where 高校

the period when(in which) he worked (彼が働いていた期間)
the company where(in which) he worked (彼が働いていた会社)
※どちらも in which で代用できる。

○修飾される名詞のはたらきを兼ねることもある。 **ハイレベル**

Spring is when the rainy season begins. (雨季が始まる時期)
This is where I was born and raised. (私が生まれ育った場所)

11. 関係副詞 why, how 高校

the reason why we work (我々が働く理由)
how we solved the problem (我々がその問題を解決した方法)
※how は修飾される名詞のはたらきを兼ねている。

12. 関係詞にカンマが付くとき 高校

カンマがあるときは、その前で一旦意味が切れる。
She has a son who is a doctor. (医者の子が1人いる →息子は1人とは限らない)
She has a son, who is a doctor. (息子が1人いるが、彼は医者だ →息子は1人だけ)
※カンマがあるときは、目的格でも関係詞を省略できない。

13. 関係代名詞 ~ever 高校

I like whatever you like. (あなたの好きなことなら何でも好きだ)
Whatever you like, I like it. (あなたの好きなことなら何でも、好きだ)
※2文は同じ意味。whatever～は上では名詞のはたらき、下では文のはたらきをしている。

| | |
|----------------------|---------|
| whatever～ | ～なら何でも |
| however～ | どんなに～でも |
| wherever～ | ～ならどこでも |
| whenever～ | ～ならいつでも |
| whichever～ | ～ならどれでも |
| whoever (whomever) ～ | ～ならだれでも |

14. 接続詞 高校

○接続詞に続く文は補足説明をしている。接続詞の多くはこのタイプ。

He lost weight because he had a bad cold. 【従位接続詞】(体重を減らしたが、それは風邪をひいたからだ)

○一部の接続詞は、2つの文を対等につなげる。

He had a bad cold and (he) lost weight. 【等位接続詞】(風邪をひいたので、体重を減らした)
※and, or, but, so, for など。

4. 助動詞,仮定法過去

英語では、現在のことでもあいまいにしたいことを過去形で表し、ていねいな表現や事実と反すること(仮定法)に使われる。いずれも日本語にはない表現。

1. 現在形の助動詞

「助動詞+一般動詞」は意思など一般的な意味を表すが、「助動詞+be 動詞」は可能性を表すことが多い。

Dogs **can** smell a faint odor. (犬はかすかなにおいをかぐことができる) 【一般的な意味】

Dogs **can sometimes be** a nuisance. (犬は時に迷惑なことがある) 【可能性】

| | 一般的な意味 (一般動詞) | 可能性 (be 動詞) |
|------------------|------------------------|---------------------|
| will | ~するつもりだ(≒be going to~) | ~だろう |
| can | ~できる(≒be able to~) | ~はありうる(疑問文は「~だろうか」) |
| must | ~しなければならない(≒have to~) | ~にちがいない |
| may | ~してもよい | ~かもしれない |
| should, ought to | ~すべきだ | ~のはずだ |

※should は shall の過去形だが、現在を表すことの方が多い。shall は使われ方が限られるので、慣用表現として覚えておいた方がよい。

2. 過去形の助動詞の歪曲表現

助動詞の過去形 would, could, might は、過去を表すのとは別に控えめな意味を表す。過去を表すより、この用法の方が一般的。

Women **could not** vote 100 years ago. (女性は100年前には投票できなかった) 【過去の意味】

She **could be** an actress someday. (彼女はいつか女優になれるだろう) 【控えめな意味】

※can より意味が弱くなる。

Could you help me with this work? (この仕事を手伝ってくれませんか) 【控えめな意味】

※can よりていねいな意味になる。

| | |
|-------|--------------------------------|
| would | will (～するつもりだ, ～だろう) より控えめな意味 |
| could | can (～できる, ～はありうる) より控えめな意味 |
| might | may (～してもよい, ～かもしれない) より控えめな意味 |

3. 助動詞の慣用表現

| | |
|--------------------------------|---------------------|
| Shall I ~? | 私が～しましょうか (申し出) |
| Shall we ~? | 私たちみんなで～しましょうか (勧誘) |
| Will(Would, Can, Could) you ~? | ～していませんか (依頼, 勧誘) |
| Can(could, may, might) I ~? | 私は～できますか (許可) |

※いずれも would, could, might など過去形を使うとよりていねいな意味になる。

4. shall は、I と we 以外を主語にして話し手の意思を表すことがある。 **高校** **ハイレベル**

My son **shall** carry your bag. ((私は)息子にカバンを運ばせるつもりだ)

5. will(過去形 would)は「どうしても～」と話し手の強い感情を表すことがある。 **高校** **ハイレベル**

An accident **will** happen. (事故はどうしても起こるものだ)

6. used to は過去の規則的な習慣, would は不規則な習慣を表すことがある。 **高校** **ハイレベル**

He **used to** go to church, but **would** sometimes be late.

(彼は(いつも)教会に行ったが、時々遅刻した)

7. 仮定法過去

仮定法では、現在の事実と反することを過去形で表す。

I hope I **pass** the examination. (試験に受ければなあ(可能性がある)) 【通常の文】

I wish I **passed** the examination. (試験に受ければなあ(可能性はほとんどない)) 【仮定法過去】

※hope と wish はどちらも「望む」という意味の動詞だが、仮定法では wish を使う。

○wish の代わりに if only を使うこともある。 **高校 ハイレベル**
If only I passed the examination. (試験に受ければなあ (可能性はほとんどない))

○as if+仮定法: まるで~のように **高校 ハイレベル**
She talks as if she were(was) a little girl. (彼女はまるで小さな女の子のように話す)
※仮定法過去では, was の代わりに were を使うことが多い。

8. if~の仮定法過去

If I were(was) a bird, I could fly there. (もし私が鳥なら, 飛んでいったのに)

○if~のかわりに with~などを使うこともある。
With more time, I could go there. (もし時間があれば, そこに行けるのに)

9. 未来の仮定 **高校 ハイレベル**

○未来の事実に反することも仮定法過去で表すが, if~の文に were to を使うこともある。
If the sun were to disappear (=If the sun disappeared), we couldn't live.
(もし太陽が消えたら, 我々は生きられない)

○未来の仮定で, 可能性があるときには if~の文に should を使う。
If you should die, your family couldn't live.
(あなたが死んだら, 家族は生きられない)

5. 完了形,仮定法過去完了

完了形や大過去形, 仮定法はいずれも日本語にはない表現で, 「have」「had」を使ってさまざまな意味を表す。

1. 現在完了形<have(has)+過去分詞>

完了(結果), 経験, 継続の3つの意味を表す。

I have studied Chinese now. (今, 勉強し終えたところだ) 【完了】

I have studied Chinese before. (以前勉強したことがある) 【経験】

I have studied Chinese for three years. (3年間ずっと勉強している) 【継続】

※have には「持つ」の意味が生きている。形は同じなので, 文脈などからどの意味か判断する。

2. 完了形でよく使われることば

| | |
|----|---|
| 完了 | now, just, already (肯定文), yet (疑問文, 否定文) |
| 継続 | for~, since~, How long~? |
| 経験 | before, often, ever (疑問文), never (否定文), once/twice など |

※経験では not ではなく never を使う。

3. 完了形のまぎらわしい表現 **高校 ハイレベル**

| | |
|---------------|--------------------------------|
| have gone to~ | ~へ行ってしまった(その結果いない) 【完了】 |
| have been in~ | ~にずっといる【継続】 ~へ行ったことがある【経験】 |
| have been to~ | ~へ行ったことがある【経験】 ~へ行ってきたところだ【完了】 |

4. 過去完了形<had+過去分詞> **高校**

I had already studied Chinese. (すでに勉強してしまっていた) 【完了】

I had studied Chinese before. (以前勉強したことがあった) 【経験】

I had studied Chinese for three years. (3年間ずっと勉強していた) 【継続】

※had には「持っていた」の意味が生きている。形は同じなので, 文脈などからどの意味か判断する。

5. 未来完了形<will have+過去分詞> **高校**

I will have studied Chinese by seven. (7時までには勉強し終えているだろう) 【完了】

I will have studied Chinese for three years by next month.

(来月で3年のあいだずっと勉強していることになる) 【継続】

※未来完了形は経験の意味ではほとんど使われない。

6. 完了形が不定詞などに過去の意味を添えるとき **高校** **ハイレベル**

完了形は不定詞、動名詞などに過去の意味を添えることがある。

He is said to be rich. (裕福であると言われている)

He is said to have been rich. (以前は裕福であったと(現在)言われている) 【不定詞】

He boasts of having been rich. (以前は裕福であったことを(現在)自慢している) 【動名詞】

He was a good engineer, having learned enough skills. (十分な技術を学んでいたの) 【分詞構文】

○助動詞には一般的な意味((例) can : できる) と、可能性を表す意味 (can : ありうる) があるが、過去の表し方が異なる。

一般的な意味のときは助動詞の過去形で表すが、可能性を表す意味では上のように「助動詞+have」で表す。

He could swim well. (彼は上手く泳げた) 【一般的な意味】

He can't have been rich. (裕福だったはずがない) 【可能性】

7. 大過去形<had+過去分詞> **高校**

英語では、過去のさらに過去のことは大過去形で表す。

The boy was an orphan. His parents had died two years before.

(少年は孤児だった(過去形)。両親は2年前に亡くなっていた(大過去形))

※過去完了形と同じ形なので、文脈などからどちらの意味か判断する。

8. 時制の一致 **高校**

日本語は文末でまとめて時を表すが、英語では1つ1つの動詞で時(現在、過去、大過去)を表す。

He said that she was sick. (彼は彼女が病気であると言った) 【過去+過去】

He said that she had been sick. (彼は彼女が(以前)病気だったと言った) 【過去+大過去】

※「彼女が病気だった」のは「彼は言った」より前のこと。

He taught us that honesty is best. (彼は正直が最善であることを教えてくれた) 【過去+現在】

※「正直が最善である」は普遍的な事実なので、現在形で表すのがふつう。

9. 仮定法過去完了<had+過去分詞> **高校**

仮定法では、過去の事実に反することは大過去形で表す。

I wish I had flown there. ((以前)そこに飛んでいけていたらなあ)

A sensible person would not have said such a thing. (分別がある人ならそんなことは言わなかっただろう)

※過去完了形、大過去形と同じ形なので、文脈などから意味を判断する。

10. if~の仮定法過去完了 **高校**

If I had been a bird, I could have flown there.

(もし私が(以前)鳥だったら、そこに飛んでいくことができたのに)

○Ifが省略され、倒置になることがある。 **ハイレベル**

Had I been a bird, I could have flown there.

6. 比較表現

人やものの性質を表すことばが形容詞，動作のようすを表すことばが副詞。比較では，形容詞や副詞を変化させてさまざまな表現をする。暗記すべき慣用表現が多い。

1. 比較表現の基本

原級 as～as: 同じく～

Mt.FUji is as **high as** Mt.Cook. (クック山と同じくらい高い)

比較級 ～er: より～

Mt.FUji is **higher than** Mt.Aso. (阿蘇山より高い)

最上級 the ～est: 最も～

Mt.FUji is **the highest in** Japn. (日本で最も高い)

※副詞では，the は省略するのがふつう。

He runs **(the) fastest** in the world.

2. 原級の注意点 **高校** **ハイレベル**

as～as のあいだにことばが入ると，意味を取りにくくなる。

It is almost **as disastrous** to win a war **as to lose** one. (戦争に勝つことは，負けることと同じく悲惨だ)

= To win a war is almost **as disastrous as** to lose one.

3. 比較級, 最上級の注意点

○綴りが長いときは，～er の代わりに more～，～est の代わりに most～が使われる。

more beautiful, the most beautiful

○比較級と最上級は単に名詞を修飾することも多い。

a **taller man than** him (彼より背の高い男)

the **tallest man on** earth (地球上で最も背の高い男)

○最上級では，範囲を示すのに in ではなく of が使われることがある。 **高校** **ハイレベル**

He is the **tallest in** the class. (クラスの中で)

He is the **tallest of** the three. (3人の中で)

※主語と同類の名詞を結ぶときは of が使われる。

4. 比較表現の不規則変化

Health is **better than** wealth. (健康はお金より大切だ)

| 原形 | 比較級 | 最上級 |
|----------------------------|--------|-------|
| good (形)よい well (副)よく, 上手に | better | best |
| bad (形)悪い ill (形)病気で | worse | worst |
| many (形)多くの much (形)多くの | more | most |
| little (形)小さい few (形)少ない | less | least |

5. 比較級, 最上級の強弱表現 **高校** **ハイレベル**

Mt.FUji is **much higher than** Mt.Aso. (阿蘇山よりずっと高い)

| | |
|--------------------|-----------|
| much, far | ずっと【比較級】 |
| much, very, by far | ずっと【最上級】 |
| a little, a bit | 少しだけ【比較級】 |

6. 否定の比較表現の注意点 **高校** **ハイレベル**

○原級と比較級に nothing, no other～がつくと，最上級の意味になる。

Nothing is so(as) precious as time.

ゼロのものが時間と同じく貴重だ → 時間が最も貴重だ

= **Nothing is more precious than** time.

No other animal is so(as) large as a whale.

ゼロの他の動物がクジラと同じ大きさだ → クジラが最も大きな動物だ

= **No other animal is larger than** a whale.

○比較級に not と no が付くとき

not : ふつうの否定語で「～でない」

She is **not more active than I.** (彼女は私より活動的ではない)

no : 「同じく～でない」

She is **no more active than I.** (彼女は私と同じく活動的でない)

※どちらも活動的ではない の意。

○less が付くとき

not less : 二重否定で肯定の意味。

Truth is **not less strange than fiction.** (事実は小説より不思議だ)

no less : 「同じく～だ」

Truth is **no less strange than fiction.** (事実は小説と同じく不思議だ)

※no は「差がゼロ → 同じ」という意味。

○数字の前に not, no がつくとき

not :

not more than 1000 yen → 多くとも 1000 円

not less than 1000 yen → 少なくとも 1000 円

no : ちょうど～

no more than 1000 yen → ちょうど 1000 円しか

no less than 1000 yen → ちょうど 1000 円も

※no は「差がゼロ → ちょうど～」という意味。

7. 原級の慣用表現 **高校** **ハイレベル**

| | |
|--------------------|---------------------|
| as ~ as ever | 相変わらず～, これまでにないほどの～ |
| not so much A as B | A ではなくむしろ B |
| A as well as B | B と同じく A も |
| not so much as～ | ～さえしない |
| as many as ~ | ～もの数 (数量を強調) |
| as often as ~ | ～もの数 (ひん度を強調) |

8. 比較級の慣用表現 **高校** **ハイレベル**

| | |
|-----------------------------------|--------------|
| 比較級 + and + 比較級 | だんだん～, ますます～ |
| the + 比較級～, the + 比較級… | ～すればするほど… |
| (all) the + 比較級 + for (because) ~ | ～なのでますます… |
| no longer～, not any more～ | もはや～ではない |
| sooner or later | 早かれ遅かれ |
| more or less | 多かれ少なかれ |
| none the less～ | ～にも関わらず |

9. 最上級の慣用表現 **高校** **ハイレベル**

| | |
|--------------------|-------------------|
| at best | よくても |
| at (the) earliest | 早くても |
| at (the) most | 多くても |
| at last | ついに |
| do one's best | 最善を尽くす |
| at (the) worst | 悪くても |
| at (the) latest | 遅くても |
| at least | 少なくとも |
| at one's best | ～の最もよい状態で |
| not ~ in the least | まったく～ない |
| make the most of～ | ～を最大限に利用する |
| make the best of～ | (困難な状況) を最大限に利用する |